

## 『学校保健安全法に基づく児童生徒等の健康診断の実施等に係る対応について』と それに関連する眼科健診について（令和3年度版）

令和3年3月11日  
公益社団法人日本眼科医会

日本眼科医会では、新型コロナウイルス感染時期における眼科学校健診について、昨年度に連絡文書\*1を発出しました。今般、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課から昨年引き続き令和3年3月1日に事務連絡\*2が発出されました。これに従い、改めて、以下の「考え方」を呈示します。各眼科学校医の先生方におかれましては、これらの「考え方」を参考に、地区教育委員会、地区医師会ならびに担当学校とご協議、ご相談の上、眼科学校健診の実施の時期、実施方法についてあらためてご検討ください。

### 【文部科学省 令和3年3月1日発出の事務連絡の抜粋】

1. 児童生徒等の定期的健康診断（学校保健安全法第13条第1項）の実施について  
児童生徒等の定期的健康診断（以下、「健康診断」という。）は、毎学年、6月30日までに実施することとされている（学校保健安全法施行規則第5条）。

#### （1）令和2年度の健康診断について

新型コロナウイルス感染症の影響により実施体制が整わない等、やむを得ない事由によって当該期日までに実施することができない場合は、当該年度末日までの間に、可能な限りすみやかに実施することとしているが、まだ実施していない学校については、早急に実施すること。

#### （2）令和3年度の健康診断について

健康診断は、学校教育活動を行う上で、児童生徒等の健康状態を把握し、必要な措置を講じるという重要な役割を果たしていることから、早期に実施することが求められている。一方で、令和3年度においては、学校医等も新型コロナウイルスワクチン接種の対応等を行うことが求められる場合など、地域によっては健康診断の実施体制が整わない等の状況も想定される。これらを踏まえ、健康診断については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施体制が整わない等、やむを得ない事由によって当該期日までに健康診断を実施することができない場合は、当該年度末日までの間に、可能な限りすみやかに実施すること。

### 2. その他の留意事項

健康診断について実施を延期する場合は、特に、日常的な健康観察や保護者との情報の共有等による児童生徒等の健康状態の把握に一層努め、健康上の問題があると認められる場合は、健康相談や保健指導等を実施し、適切に支援すること。

### 【眼科学校医としての考え方】

この事務連絡から、令和2年度の眼科学校健診については、未実施の場合は、令和3年3月末日までに速やかに実施すること。また令和3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響によって令和3年6月30日までに眼科学校健診を実施することができない場合には、令和4年3月末日までの間に実施すること、となりました。

そこで、以下の3点について、日本眼科医会の「考え方」をお示しします。この「考え方」は「例」としてとらえていただき、各学校医の先生方による、新型コロナウイルス感染症流行時における眼科学校健診の在り方についてご参考になればと存じます。

#### ① 例年通り健診を実施するか延期するか

すでに実施日時について、各学校と予定を組んでいる先生方もいらっしゃると思いますが、各自治体の新型コロナウイルス感染症の状況の差異によって、昨年度と同様に地域ごとに学校行事の施行・運用に差が生じるものと推察されます。これより、眼科学校健診の実施につきましても、地域ごとの状況を鑑み、基本的な感染管理など都道府県眼科医会の方針をご検討のうえ、地区教育委員会や学校関係者、また必要に応じて地区医師会と連絡をおとりいただき、実施時期についての調整等ご相談ください。

#### ② 健診の行い方（例）

児童・生徒が、新型コロナウイルスの無症候性感染者であることも否定できないため、下記の「健診の行い方」（例）を呈示いたします。状況に応じて参考にしてください。基本は接触・飛沫感染予防です。

##### [医師側]

- 1) メガネ(ゴーグル)+サージカルマスク+手袋をして接触する(手袋は児童・生徒ごとに交換)
- 2) メガネ(ゴーグル)+サージカルマスク+手袋はしておくが、「かゆみ」「眼脂」等の問診と「球結膜の充血」の視診をして、必要に応じこれら症状・所見の該当者のみ接触する。(手袋は接触した児童・生徒のあとに直ちに交換)。
- 3) メガネ(ゴーグル) +サージカルマスクで対応。接触した場合は、70%消毒用アルコールによる手指消毒または石鹸で手洗いできる環境が望ましい。
- 4) フェースシールドは、児童生徒等からの飛沫感染に対する防護に使用できる。

##### [児童生徒側・学校側の準備]

令和3年2月19日の文部科学省事務次官通知\*3を踏まえると、眼科学校健診の重点は、3密の徹底回避と咳エチケット、そして手洗いの徹底となります。具体的には、感染リスクを低減させるための3条件(①密閉空間にしないための換気の徹底、②児童生徒等が手の届く距離に集まらないための身体的距離を確保する配慮、③近距離での会話や大声での発声をできるだけ控える)を徹底させることと言えます。咳エチケットと健診前の手洗いの徹底も従前通りとします。

また、健診を行う側にも感染リスクを低くするために、手指衛生としてアルコール消毒や手

袋が必要となります。これに従って、以下の準備を、地区教育委員会ならびに学校関係者にご検討いただきたいところです。

1) 可能な限り、児童生徒等はマスク着用のこと。持参していない場合、児童生徒等は口をしっかりと閉じることを指示。またはハンカチ等で口を覆うことも考慮する。

2) 換気をよくする。児童生徒等は喋らせない。保健室等の健診する部屋には多人数をいれず、静かに廊下に待機させ、感染しやすい環境となる 3 要素を満たさないようにする。

3) フェースシールド、擦式アルコール消毒薬の準備ならびに手袋の準備(これらについて、診療所からの持ち出しは日常診療に支障をきたすため難しいこと、またこれらは、今回のような事態における各科共通の必要不可欠な物品であることも、地区教育委員会ならびに学校関係者にご理解いただき、学校側でご用意いただきたいところです)。

上記、[医師側]ならびに[児童生徒側・学校側の準備]の項目は「例」であって、これにとらわれることなく、接触・飛沫感染予防対策を十分に行い、『手洗いや咳エチケット、換気といった基本的な感染症対策に加え、感染拡大リスクが高い「3つの密(密閉・密集・密接)」を徹底的に避ける、身体的距離を確保するといった感染症対策を徹底する』環境を整えることができれば、他の方法を行うことを否定するものではありません。

### ③留意点

◆健診を行うにあたっては、事前準備等種々の課題があるため、地区教育委員会や学校関係者と事前相談を十分に行うことが推奨されます。

◆眼科学校健診に出務する眼科医を含む医療従事者は、健診までに新型コロナウイルスのワクチン接種を終えていることが理想です。しかし、ワクチン供給量等によって、接種時期のズレが生じる可能性があるほか、中学生までの児童生徒等はワクチン接種の対象年齢ではありません。医療従事者が接種を受けていても完全に感染を予防できるものでもありません。適切な PPE を着用して健診に臨んでいただくようお願いいたします。

◆引き続き、通常のウイルス性結膜炎に類似した「結膜炎」が、新型コロナウイルス感染症患者で時にみられるとのことですが、主に呼吸器症状を呈する患者に発症するとされていることを考慮ください。

◆医師側はサージカルマスク (ASTM F2100-19 推奨) を使用し、必要に応じて N-95 マスクの活用も考慮します。これに対して、児童生徒等は、布マスクもしくはウレタンマスクを使用している場合が比較的多いようです。目の前でくしゃみや咳嗽、大声を出した場合、飛沫もしくはエアロゾルが拡散しやすい可能性もあり (フィルター機能が付加されたものはその限りではありません)、できる限りフェースシールドを使用したいところです。

このように、飛沫等を浴びる状況になったときなど、先に述べたメガネやゴーグル装用により、眼への飛入を物理的に、ある程度さえぎれる可能性があることがあげられます。もちろん、メガネ、ゴーグルそしてフェースシールドのいずれも、リスクの低減は考えられるにしても確実に感染を防御できるものではないことはご承知おきください。

なお、健診時に児童・生徒に新たにメガネ (ゴーグル) を装用させる必要はありません。

◆その他の留意事項として、眼科健診を延期せざるを得ない場合には、感染拡大や学校の臨時休業を視野に入れる必要があります。このように、一定の期間児童生徒がやむを得ず学校に登校できない場合などには、例えば同時双方向型のウェブ会議システムの活用による学習指導と学習把握を行うことなど、ICT 環境を活用したりして指導することが重要と文部科学省はガイドラインで示しています。

折しも令和3年4月からGIGAスクール構想における児童生徒1人一台のデジタル端末導入が本格化します\*4。デジタル端末使用による眼の健康への影響については、学校のみならず家庭においても今後留意すべき事項となりえます。学校健診を機会に養護教諭等に本会の資料等を用いて眼科学校医が眼の健康について説明するなどし、啓発を行うことは適切な健康支援につながるでしょう\*5。

◎参考：ASTM規格は、ASTM International（旧称 American Society for Testing and Materials：米国試験材料協会）が策定・発行する規格です。ASTM F2100は医療用フェイスマスク（サージカルマスク）の規格となり、現在はASTM F2100-19からF2100-20（Standard Specification for Performance of Materials Used in Medical Face Masks）に更新されています\*6。

昨年来、新型コロナウイルスに対して使用されているサージカルマスクは、ASTM F2100-19となります。素材条件としては、BFE（細菌濾過率） $\geq 98\%$ 、PFE（微粒子濾過率） $\geq 98\%$ 、呼吸抵抗（ $\text{mmH}_2\text{O}/\text{cm}^2$ ） $< 6.0$ 、血液不浸透性（ $\text{mmHg}$ ）160、延燃性 Class1の『レベル3』が適しているものと考えられます。

※2021年4月8日改訂

3ページの「F2100-19もしくはF2100-20推奨」をF2100-20は極めて入手困難のため「F2100-19推奨」に変更。

参照 URL

\* 1 参照 URL : 『新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた学校保健安全法に基づく児童生徒等の健康診断の実施等に係る対応について』とそれに関連する眼科健診について  
日本眼科医会 令和 2 年 3 月 25 日

[https://www.gankaikai.or.jp/school-health/20200325\\_kenshin.pdf](https://www.gankaikai.or.jp/school-health/20200325_kenshin.pdf)

\* 2 参照 URL : 学校保健安全法に基づく児童生徒等の健康診断の実施等に係る対応について 文部科学省 事務連絡 令和 3 年 3 月 1 日

[https://www.mext.go.jp/content/20200301-mxt\\_kouhou01-000004520\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200301-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf)

\* 3 参照 URL : 新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドラインの改訂について (通知) 文部科学省 事務次官通知 令和 3 年 2 月 19 日

[https://www.mext.go.jp/content/20210219-mxt\\_kouhou01-000004520-03.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210219-mxt_kouhou01-000004520-03.pdf)

\* 4 参照 URL : 文部科学省 GIGA スクール構想の実現へ

[https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt\\_syoto01-000003278\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_1.pdf)

\* 5 参照 URL : ICT 教育・GIGA スクール構想と眼科学校医の関わり ●眼科学校医が知っておくべき 25 のポイント◆

[https://www.gankaikai.or.jp/school-health/20210305 ICT\\_GIGA.pdf](https://www.gankaikai.or.jp/school-health/20210305 ICT_GIGA.pdf)

\* 6 参照 URL : ASTM F2100 – 20. Standard Specification for Performance of Materials Used in Medical Face Masks.

[https://www.astm.org/SUBSCRIPTION/filtrexx40.cgi?REDLINE\\_PAGES/F2100.htm](https://www.astm.org/SUBSCRIPTION/filtrexx40.cgi?REDLINE_PAGES/F2100.htm)